

札幌市 高齢社会に関する意識調査 報告書（概要版）

令和8年3月

目次

1	調査の概要.....	1
2	住まい・家族構成など.....	2
3	生活状況や社会参加.....	8
4	心身の状況.....	16
5	保健・福祉施策.....	21

1 調査の概要

調査の概要

(1) 調査目的

この調査は、40歳以上の方々の高齢社会に対する意識や高齢者福祉施策全般に関する考え方を把握・整理し、令和9年度を始期とする新たな「札幌市高齢者支援計画」の策定や各高齢者施策・介護保険事業の実施に当たっての基礎資料とすることを目的として実施した。

(2) 調査対象

令和7年11月1日現在、札幌市内に在住する65歳以上の市民5,000人、40歳以上64歳以下の市民1,500人を居住区別の構成比率に基づき無作為に抽出した。

(3) 調査基準日

令和7年12月1日現在の状況について回答していただいた。

(4) 調査期間

令和7年12月1日～12月22日

(5) 調査方法

郵送による調査票の発送・回収

(6) 回収結果

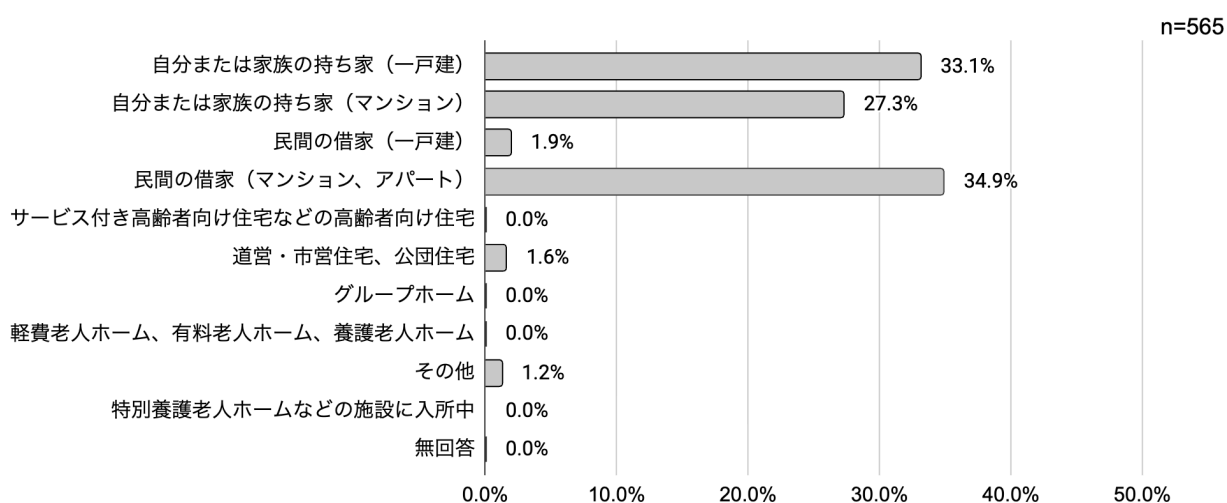
	40歳以上 64歳以下	65歳以上	合計
発送数	1,500件	5,000件	6,500件
回収数	—	—	3,439件 (52.9%)
有効回収数	—	—	3,435件 (52.8%)
有効回答数	565件 (37.7%)	2,836件 (56.7%)	3,401件 (52.3%)

2 住まい・家族構成など

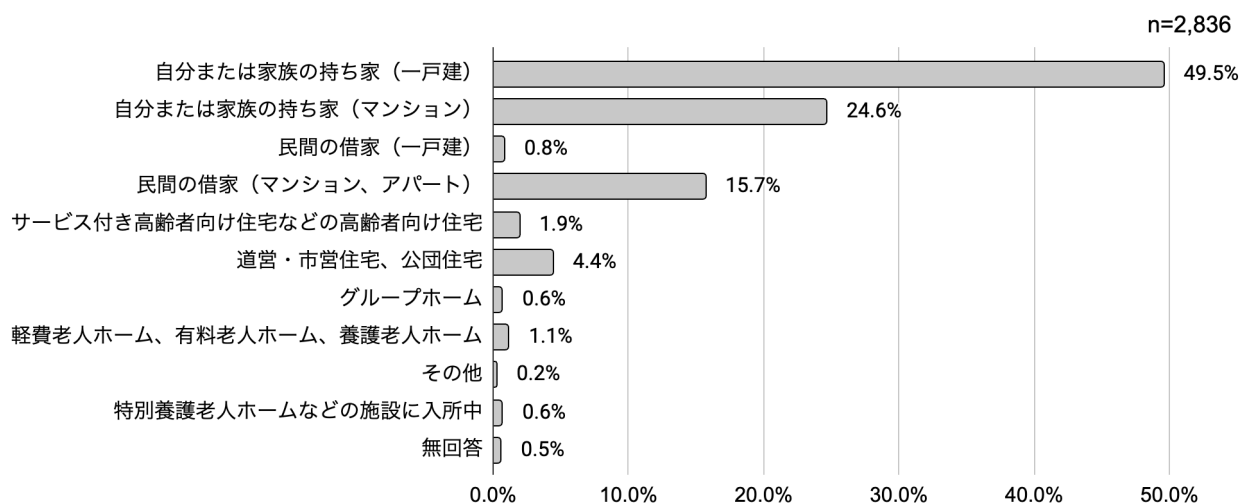
現在の生活場所

現在の生活場所は、64歳以下で「民間の借家（マンション、アパート）」が最も多く34.9%となっており、次いで「自分または家族の持ち家（一戸建）」（33.1%）、「自分または家族の持ち家（マンション）」（27.3%）の順となっている。65歳以上は「自分または家族の持ち家（一戸建）」が最も多く49.5%となっており、次いで「自分または家族の持ち家（マンション）」（24.6%）、「民間の借家（マンション、アパート）」（15.7%）となっている。

現在の生活場所 40歳以上64歳以下



65歳以上

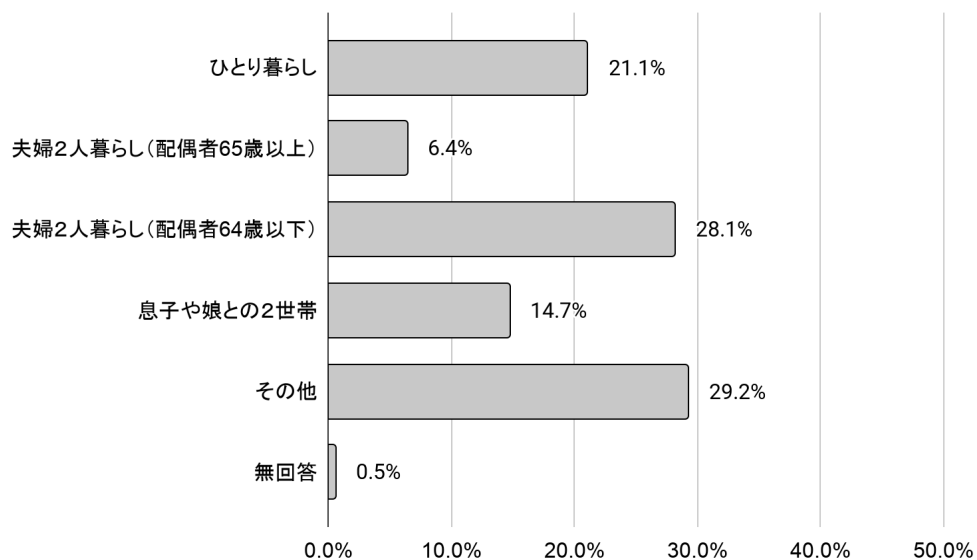


家族構成

世帯の家族構成について尋ねたところ、64歳以下は「その他」が最も多く29.2%、65歳以上は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も多く41.7%となっている。一方、「ひとり暮らし」は、64歳以下は21.1%、65歳以上では25.4%となっている。

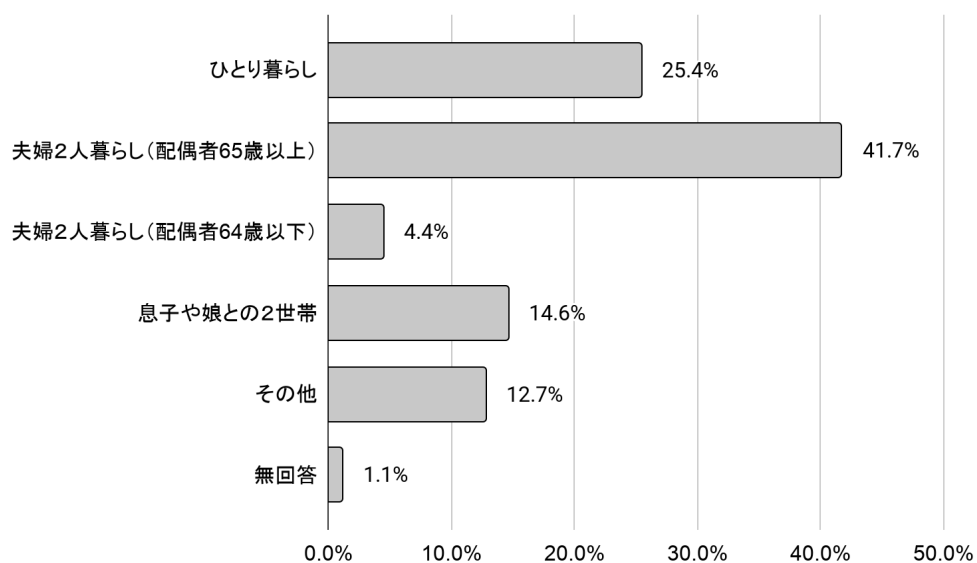
家族構成 40歳以上64歳以下

n=565



65歳以上

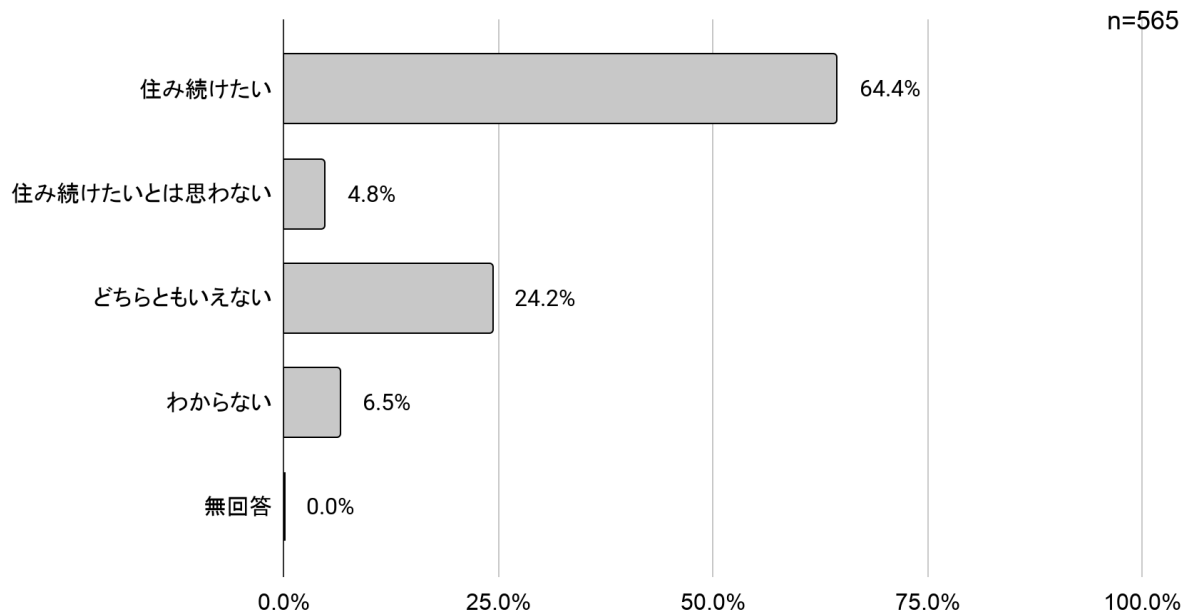
n=2,818



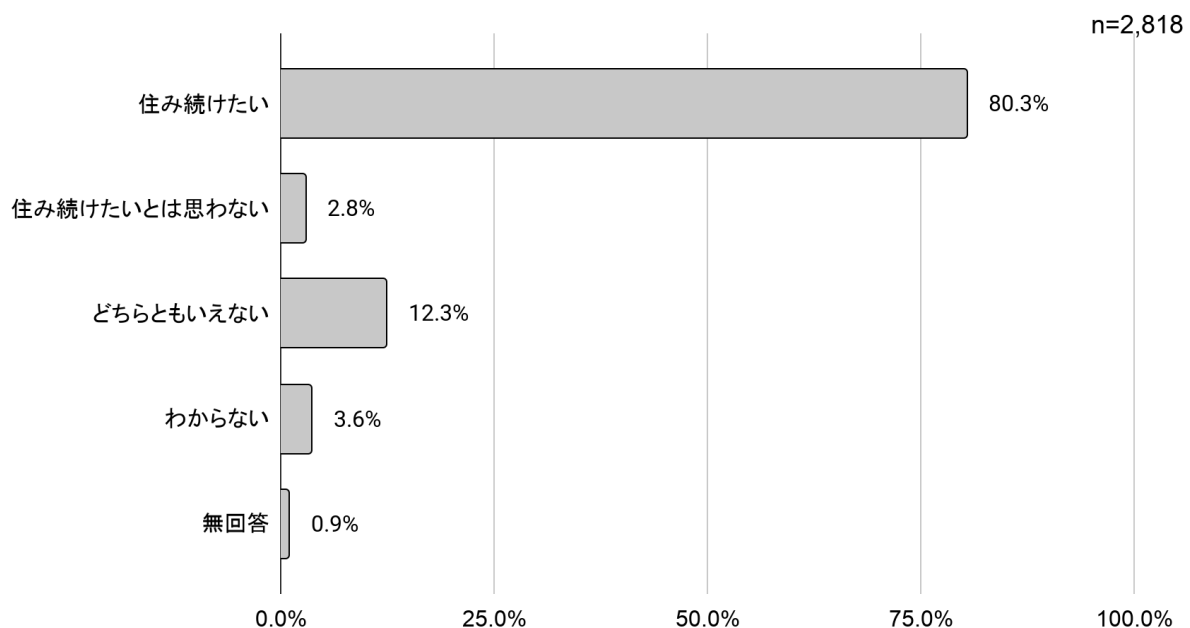
現地域での居住継続希望

今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うか尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「住み続けたい」が最も多く、64歳以下は64.4%、65歳以上は80.3%となっている。一方、「住み続けたいとは思わない」は、64歳以下は4.8%、65歳以上は2.8%となっている。

現地域での居住継続希望 40歳以上64歳以下



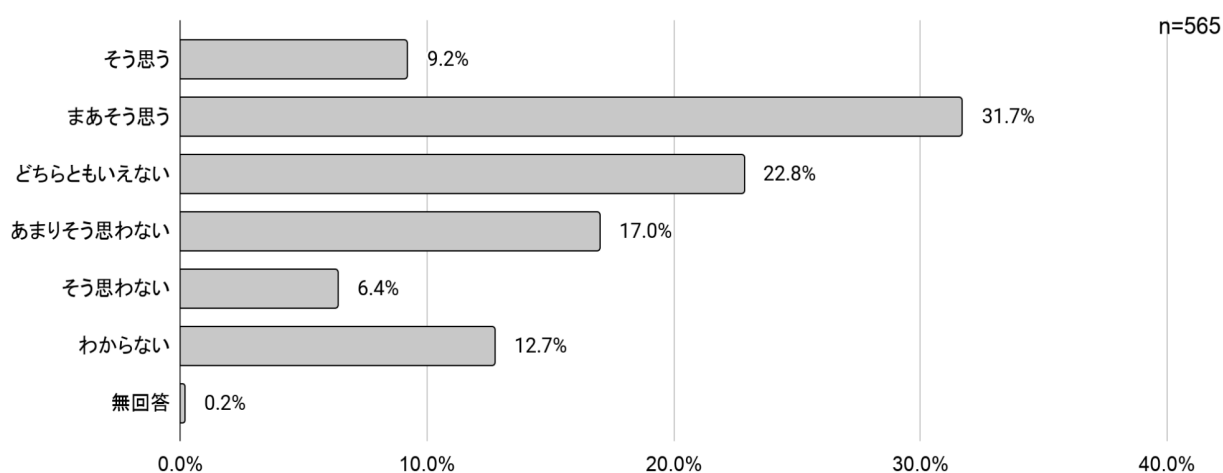
65歳以上



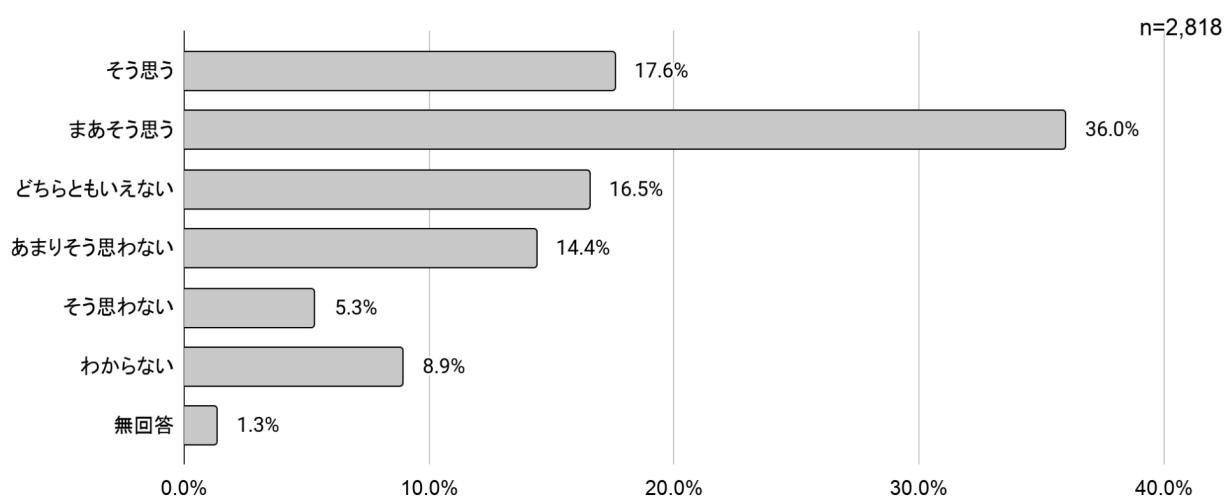
生活環境の整備状況

札幌市は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていると思うかを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「まあそう思う」が最も多く、それぞれ31.7%、36.0%となっている。

生活環境の整備状況 40歳以上64歳以下



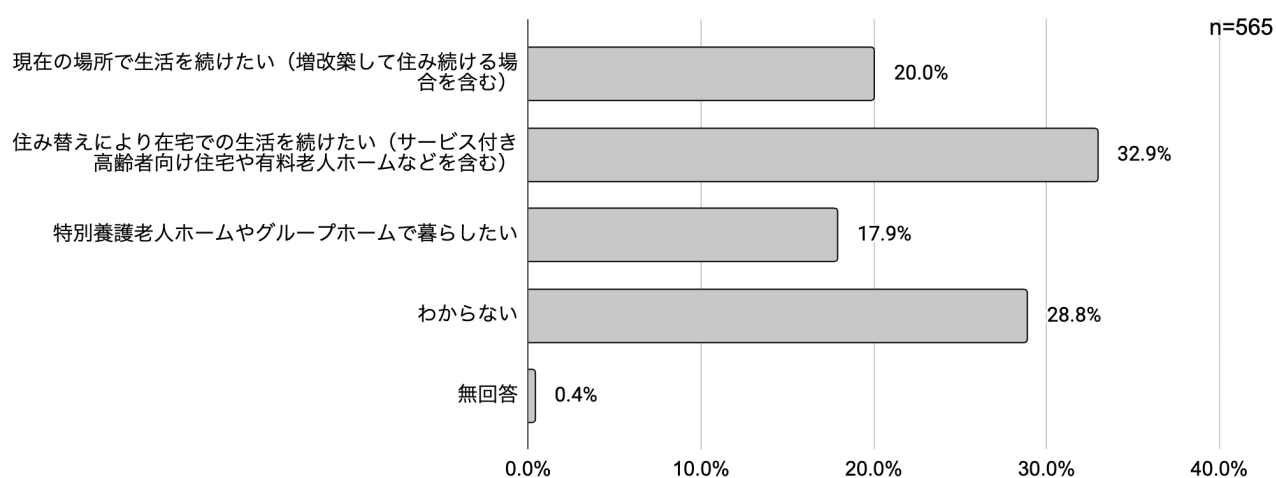
65歳以上



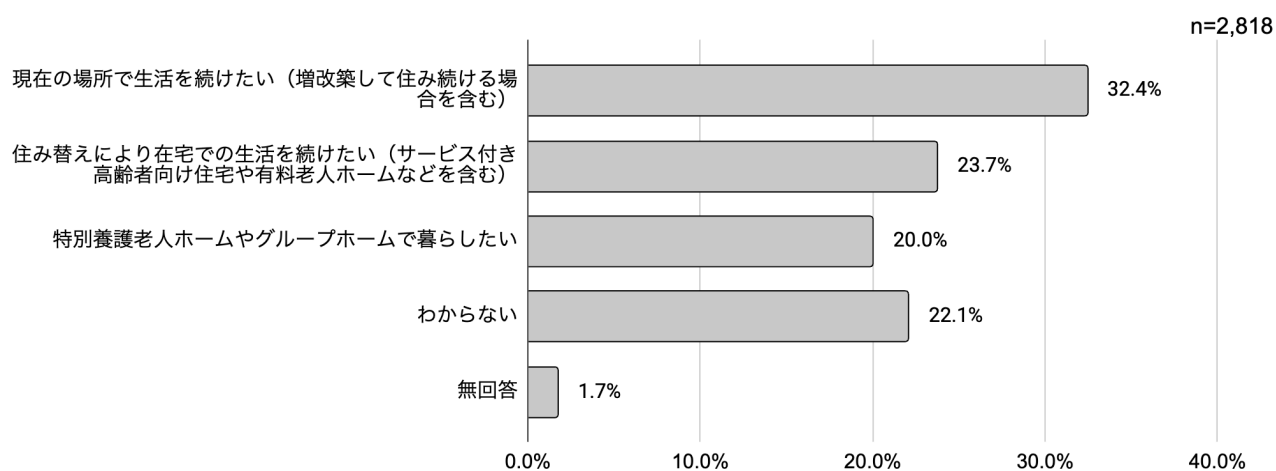
今後の生活場所の希望

身体が弱くなったりした場合の生活場所について尋ねたところ、64歳以下は「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」（32.9%）が最も多く、次いで「わからない」（28.8%）となっている。65歳以上は、「現在の場所で生活を続けたい（増改築して住み続ける場合を含む）」（32.4%）が最も多く、次いで「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」（23.7%）となっている。

今後の生活場所の希望 40歳以上64歳以下



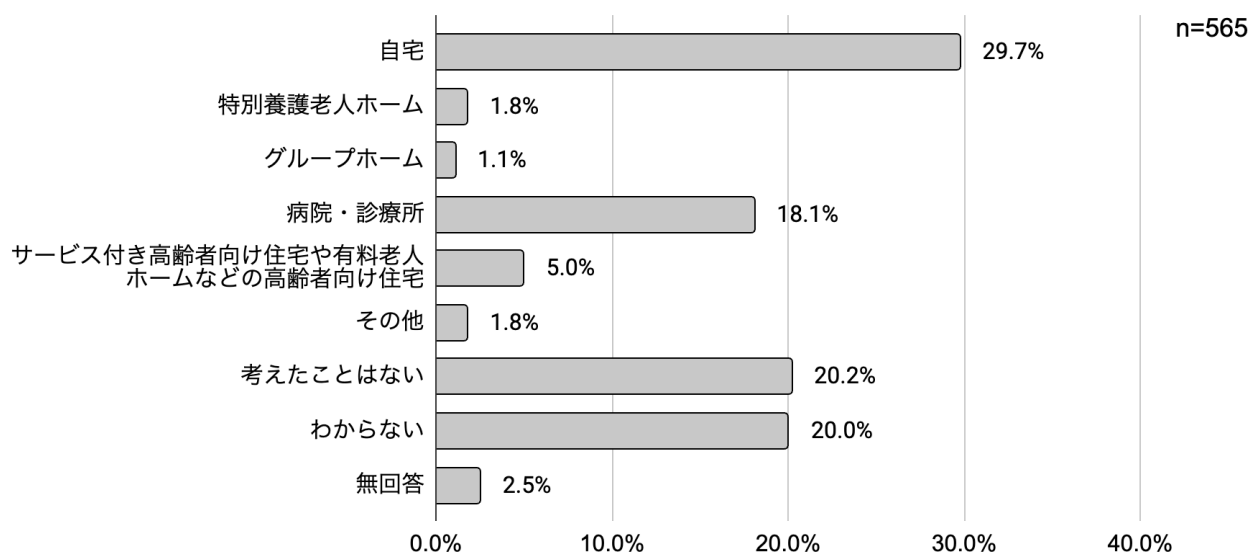
65歳以上



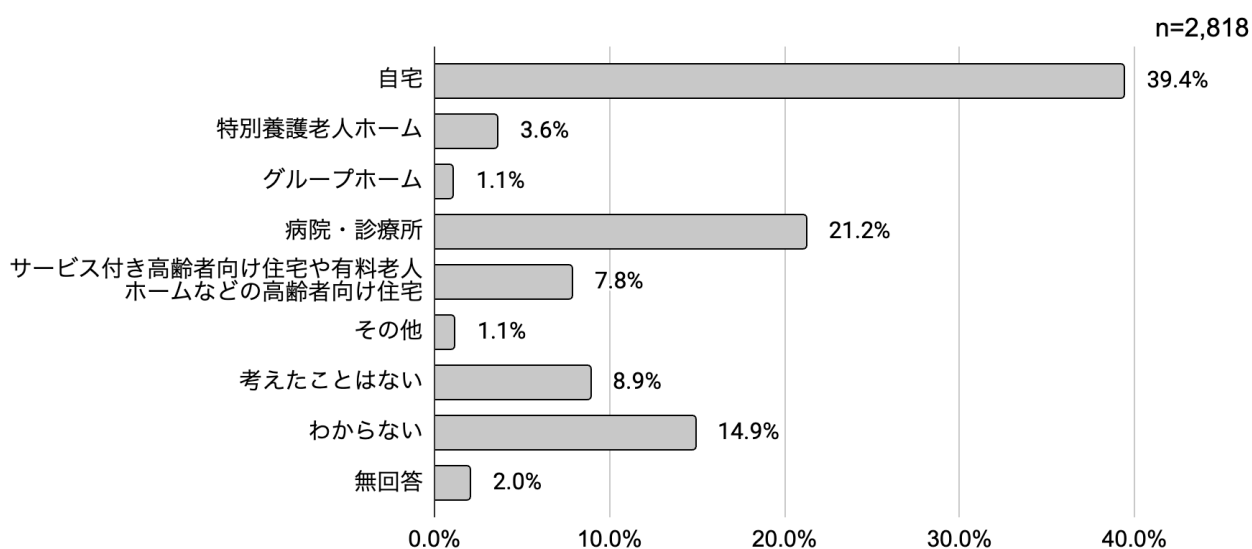
最期を迎えたい場所

最期を迎えたい場所について尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「自宅」が最も多く、64歳以下は29.7%、65歳以上は39.4%となっている。次いで、64歳以下は、「考えたことはない」(20.2%)、「わからない」(20.0%)となっており、65歳以上は、「病院・診療所」(21.2%)、「わからない」(14.9%)となっている。

最期を迎えたい場所 40歳以上64歳以下



65歳以上

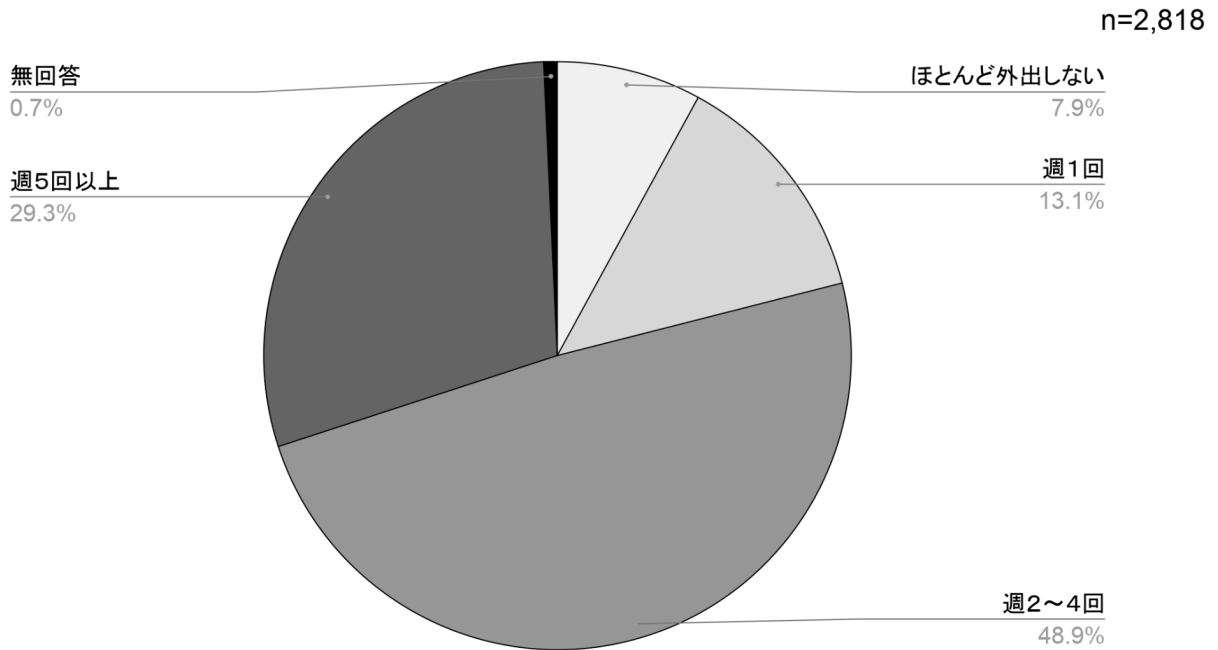


3 生活状況や社会参加

外出頻度【65歳以上のみ】

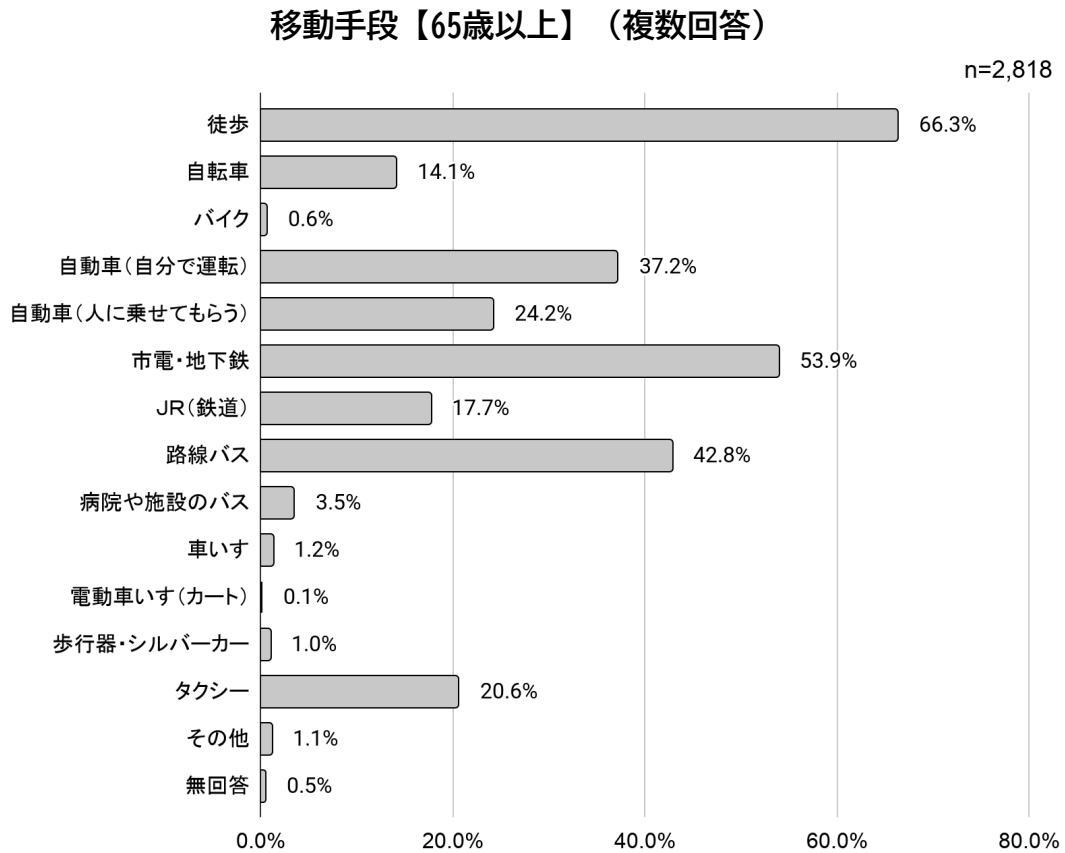
週に1回以上は外出しているかを尋ねたところ、「週2～4回」（48.9%）が最も多く、次いで、「週5回以上」（29.3%）、「週1回」（13.1%）となっている。

外出頻度【65歳以上】



移動手段【65歳以上のみ】（複数回答）

外出する際の移動手段について尋ねたところ、「徒歩」（66.3%）が最も多く、次いで「市電・地下鉄」（53.9%）、「路線バス」（42.8%）となっている。

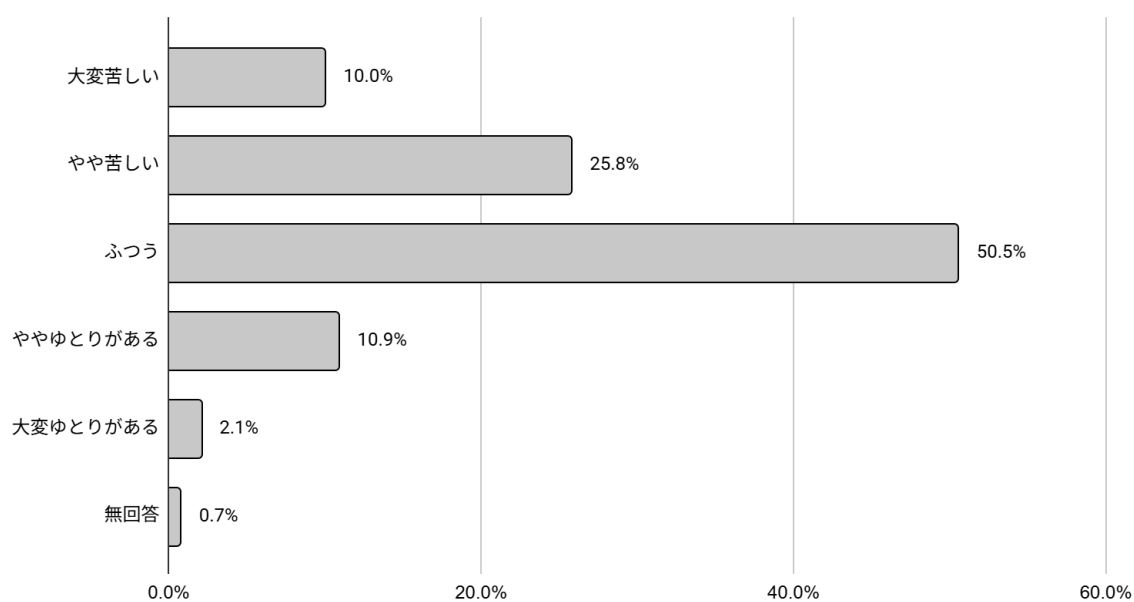


経済状況【65歳以上のみ】

現在の経済的な暮らしの状況について尋ねたところ、「ふつう」（50.5%）が最も多く、次いで「やや苦しい」（25.8%）、「ややゆとりがある」（10.9%）となっている。

経済状況【65歳以上】

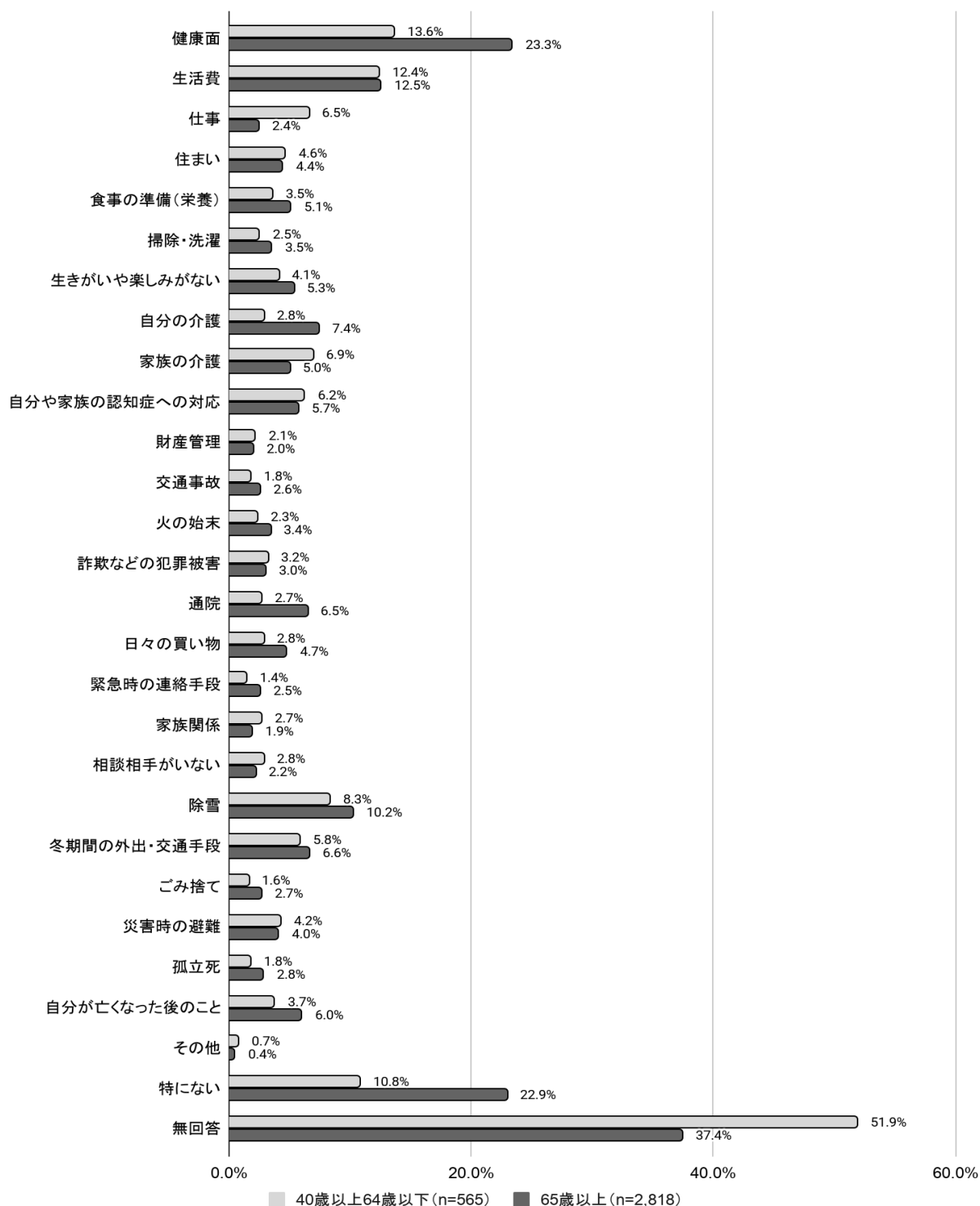
n=2,818



現在の困りごと（複数回答）

現在困っていることや心配なことがあるか尋ねたところ、無回答を除くと、64歳以下、65歳以上ともに「健康面」が最も多く、64歳以下は13.6%、65歳以上は23.3%となっている。次いで、64歳以下は「生活費」が12.4%、65歳以上は「特にない」が22.9%となっている。

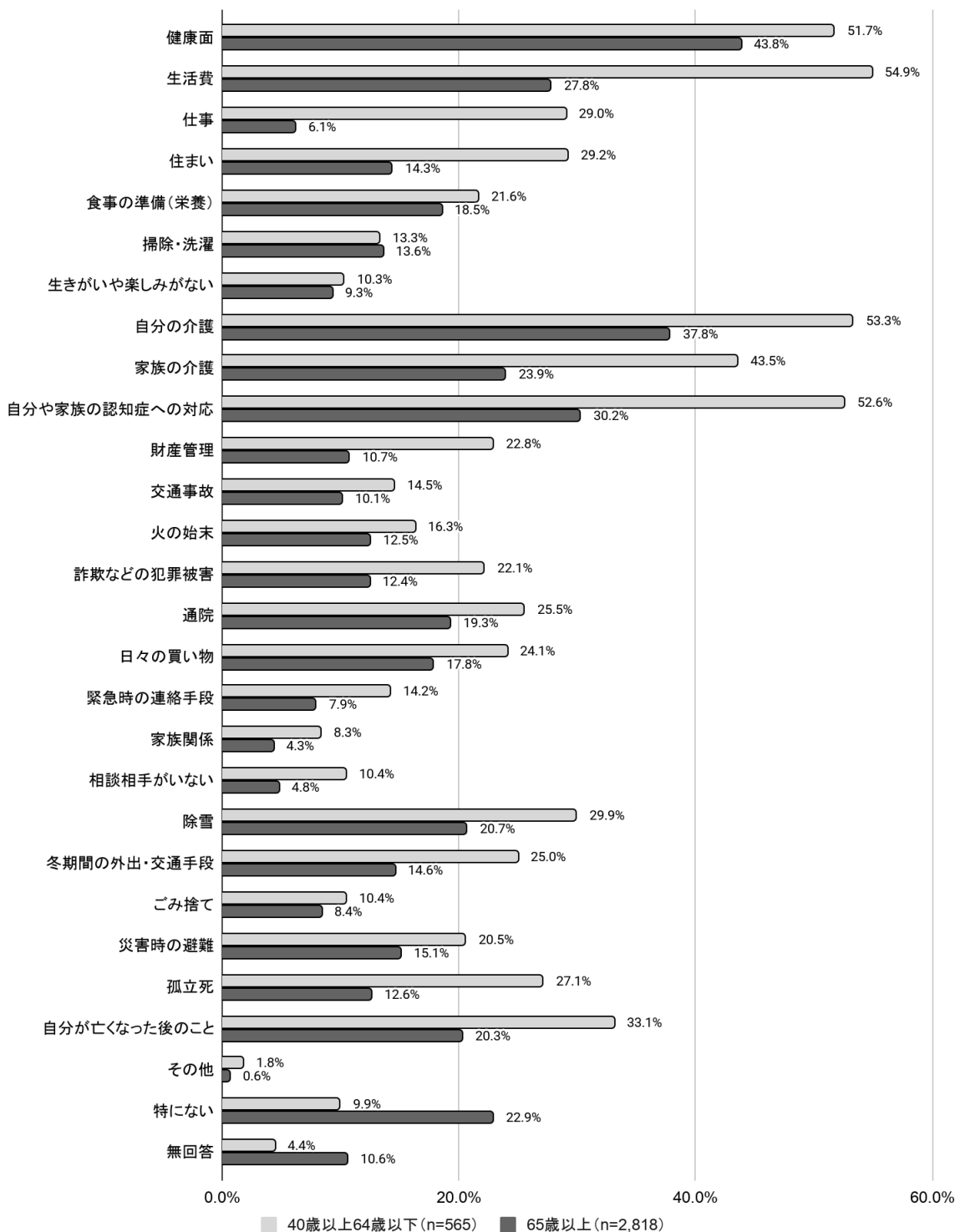
現在の困りごと（複数回答）



将来の不安（複数回答）

将来に向けて不安に思うことがあるかと尋ねたところ、64歳以下は「生活費」（54.9%）、65歳以上は「健康面」（43.8%）が最も多くなっている。次いで、「自分の介護」（64歳以下53.3%、65歳以上37.8%）、「自分や家族の認知症への対応」（64歳以下52.6%、65歳以上30.2%）となっている。

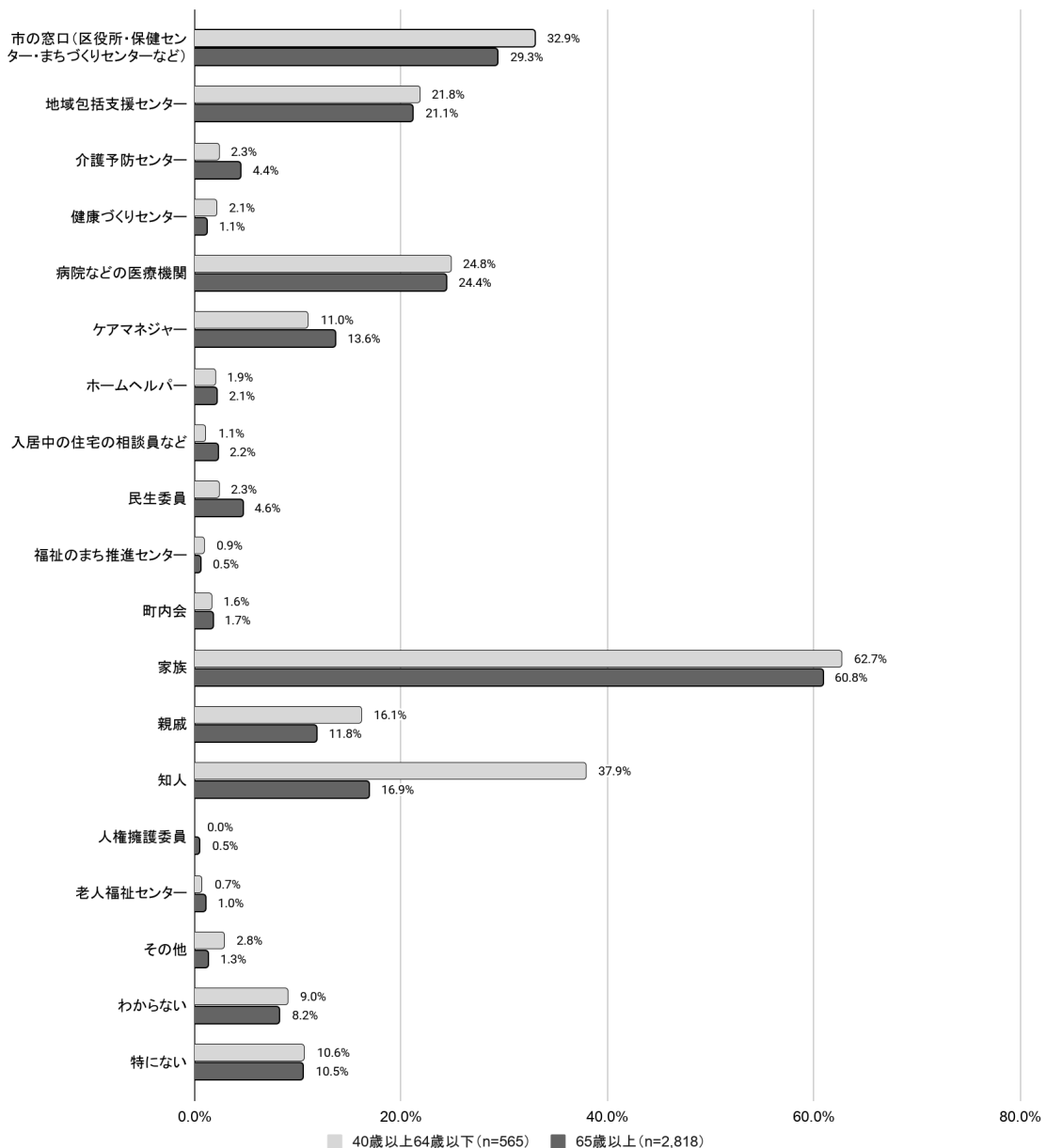
将来の不安（複数回答）



困りごとや不安の相談先（複数回答）

困っていることや不安に思っていることの相談先について尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「家族」が最も多く、64歳以下は62.7%、65歳以上は60.8%となっている。次いで、64歳以下では「知人」（37.9%）、「市の窓口（区役所・保健センター・まちづくりセンターなど）」（32.9%）となっており、65歳以上では「市の窓口（区役所・保健センター・まちづくりセンターなど）」（29.3%）、「病院などの医療機関」（24.4%）となっている。

困りごとや不安の相談先（複数回答）

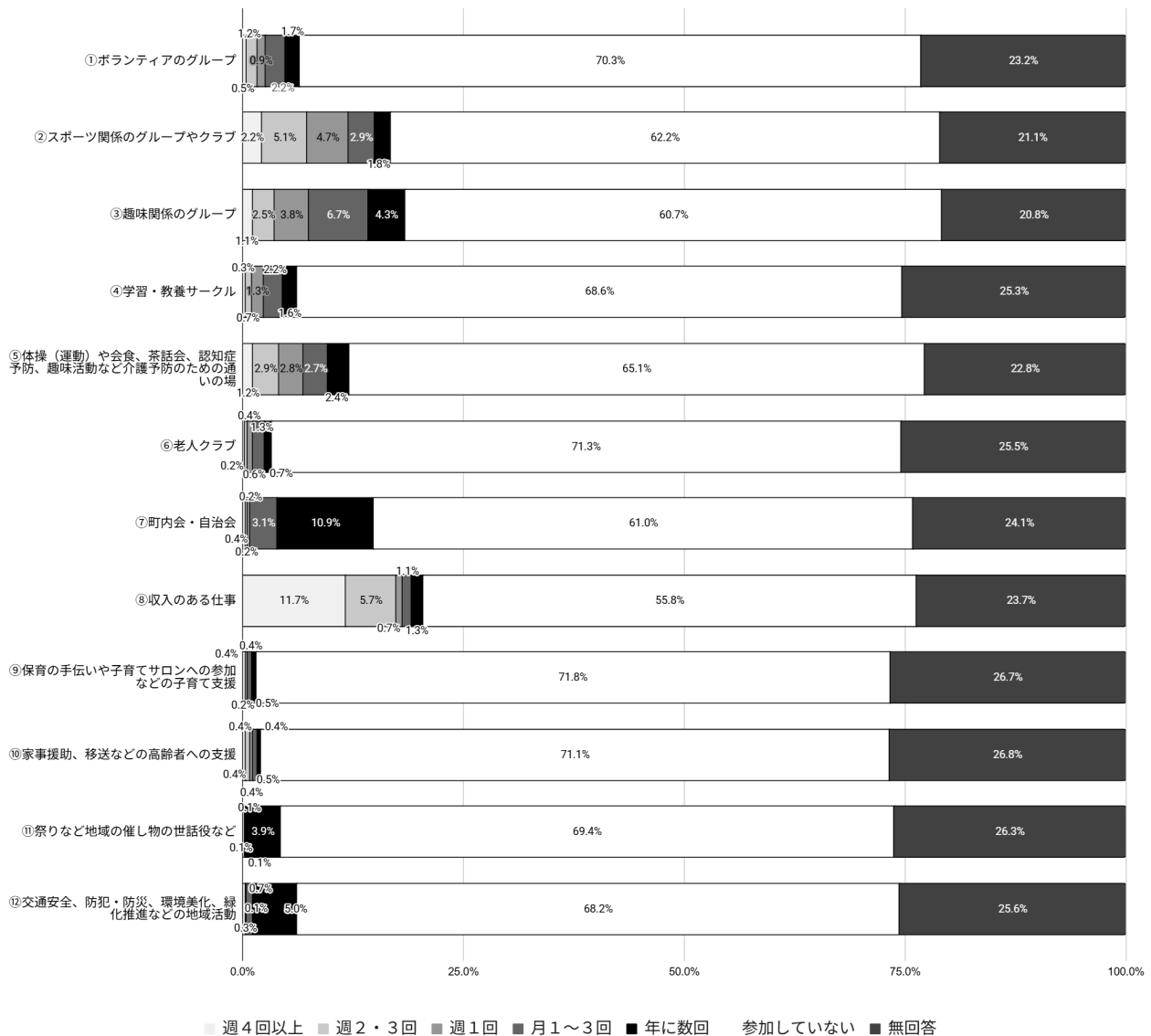


活動への参加頻度【65歳以上のみ】

地域活動参加の頻度について尋ねたところ、すべての会・グループにおいて「参加していない」が半数を超える結果となった。

活動への参加頻度【65歳以上】

n=2,818

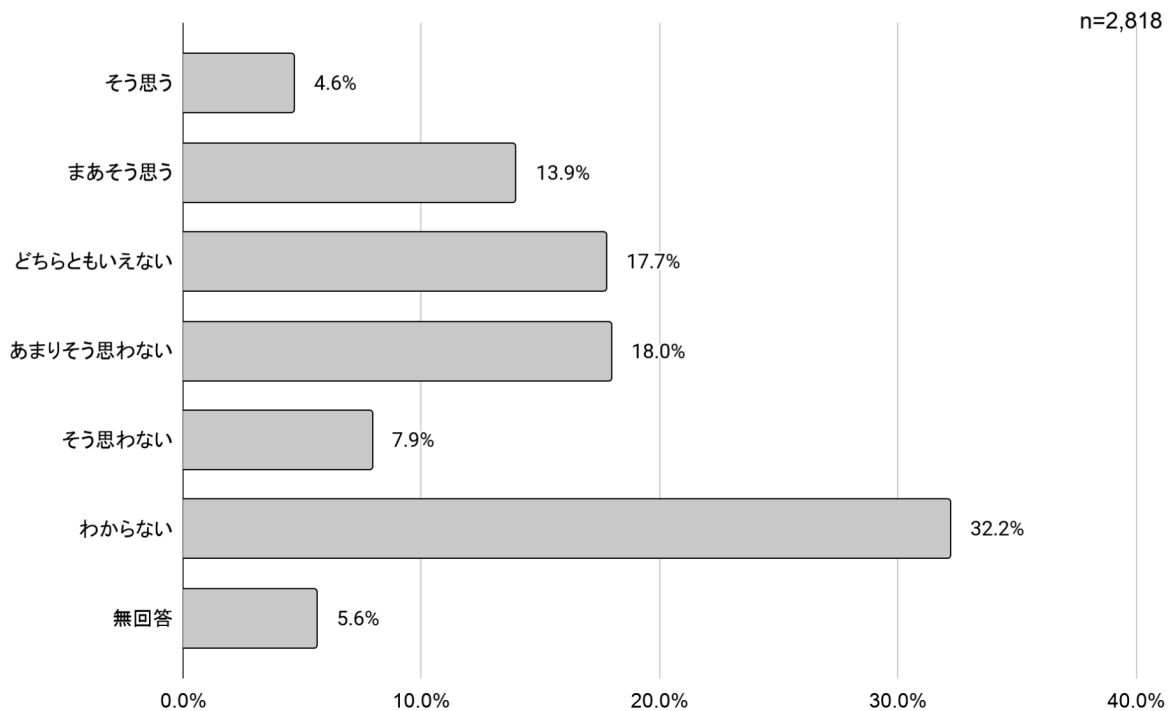


社会参加の機会【65歳以上のみ】

札幌市は、高齢者が積極的に社会参加できる機会が十分にあると思うかを尋ねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が18.5%となっている。

一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は25.9%となっている。

社会参加の機会【65歳以上】

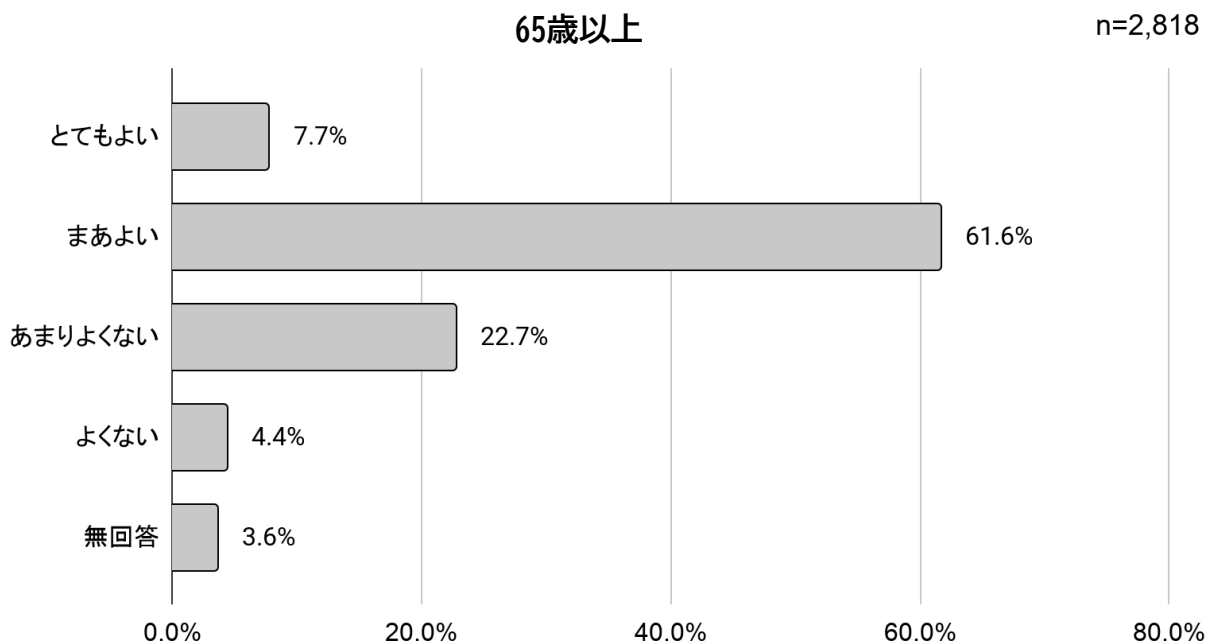
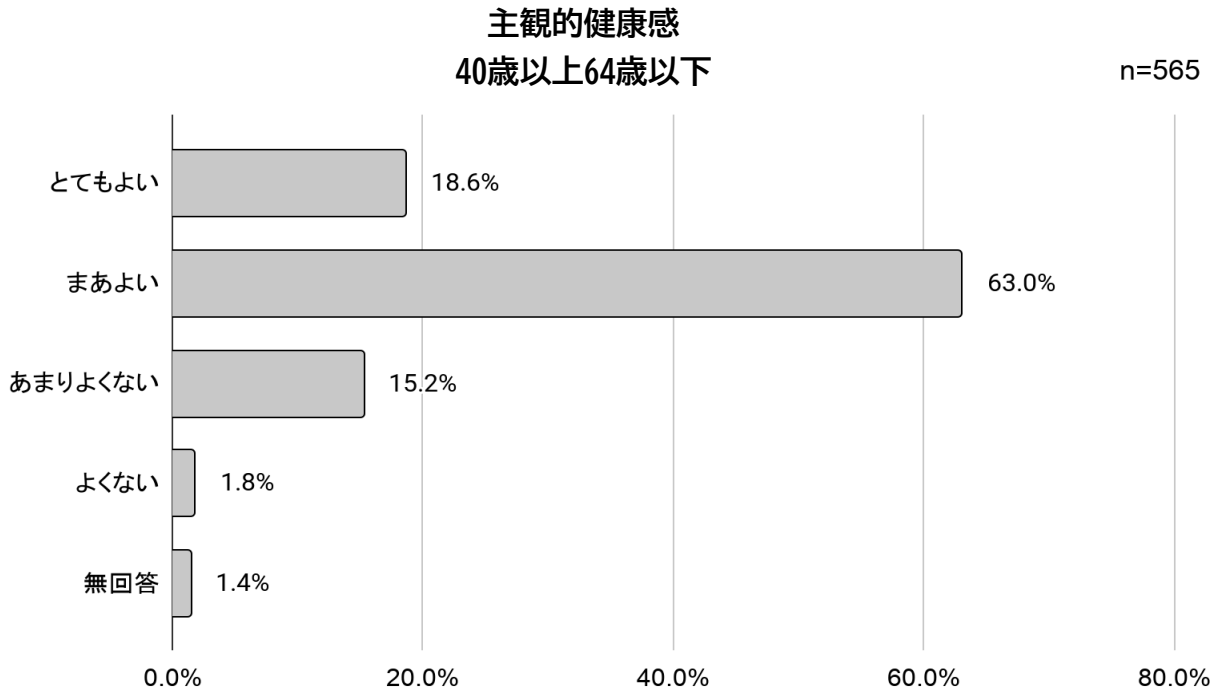


4 心身の状況

主観的健康感

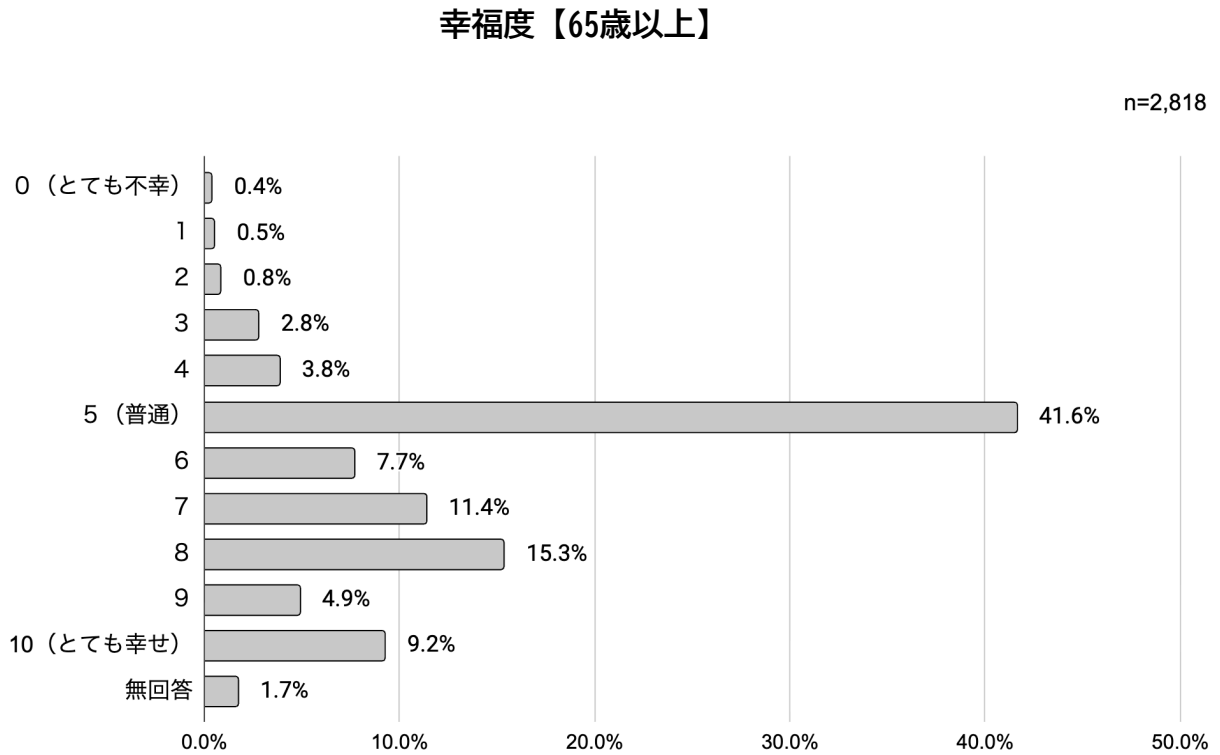
健康状態について尋ねたところ、「とてもよい」「まあよい」を合わせた割合が、64歳以下は81.6%、65歳以上は69.3%と、ともに50.0%を超えている。

一方、「あまりよくない」「よくない」を合わせた割合は、64歳以下は17.0%、65歳以上は27.1%となっている。



幸福度【65歳以上のみ】

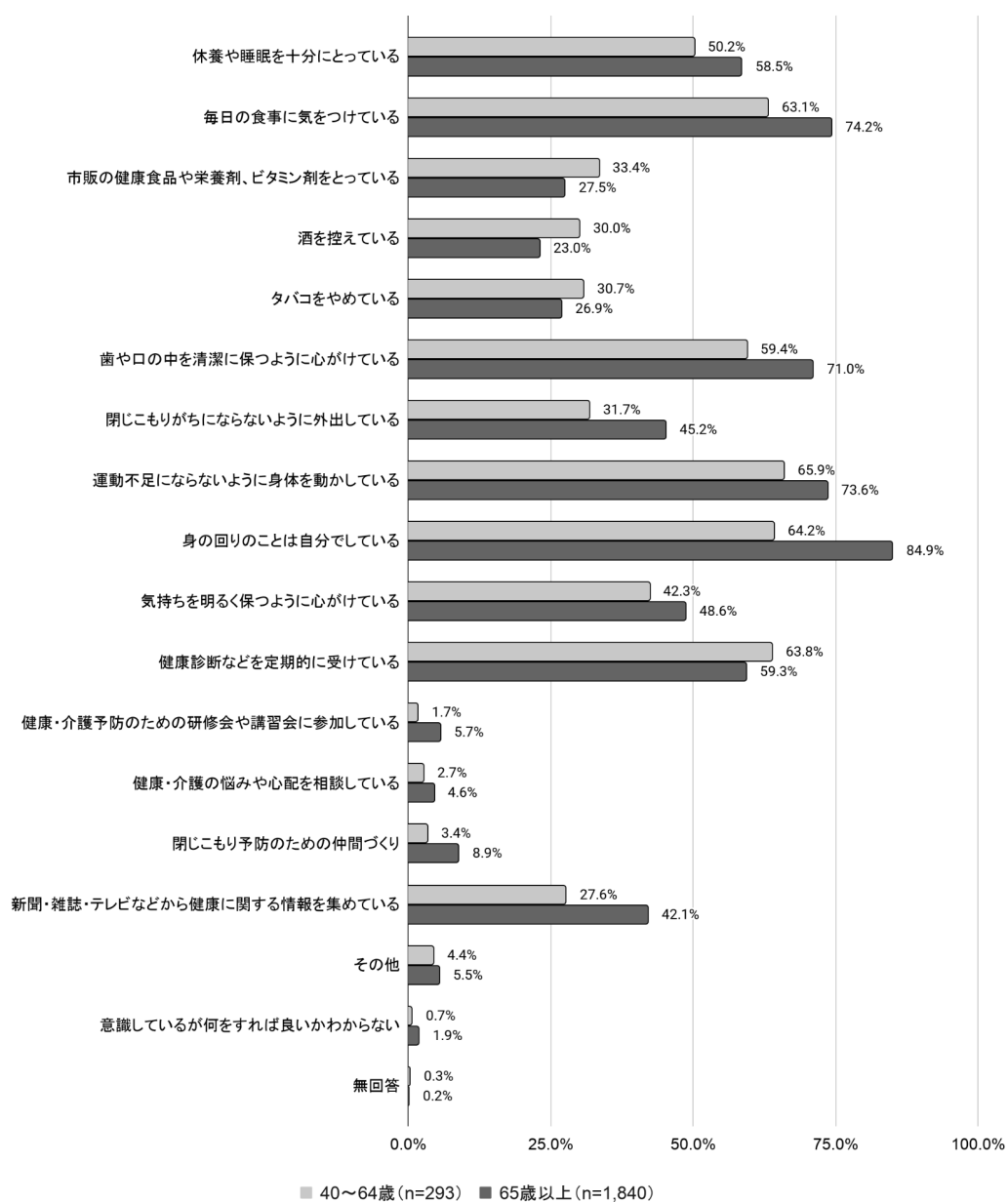
現在の幸福度について尋ねたところ、「5（普通）」（41.6%）が最も多く、次いで「8」（15.3%）、「7」（11.4%）となっている。



健康維持・介護予防の取組（複数回答）

現在行っている健康維持・介護予防の取組について尋ねたところ、64歳以下では「運動不足にならないように身体を動かしている」（65.9%）、65歳以上では「身の回りのことは自分でしている」（84.9%）が最も多くなっている。

健康維持・介護予防の取組（複数回答）

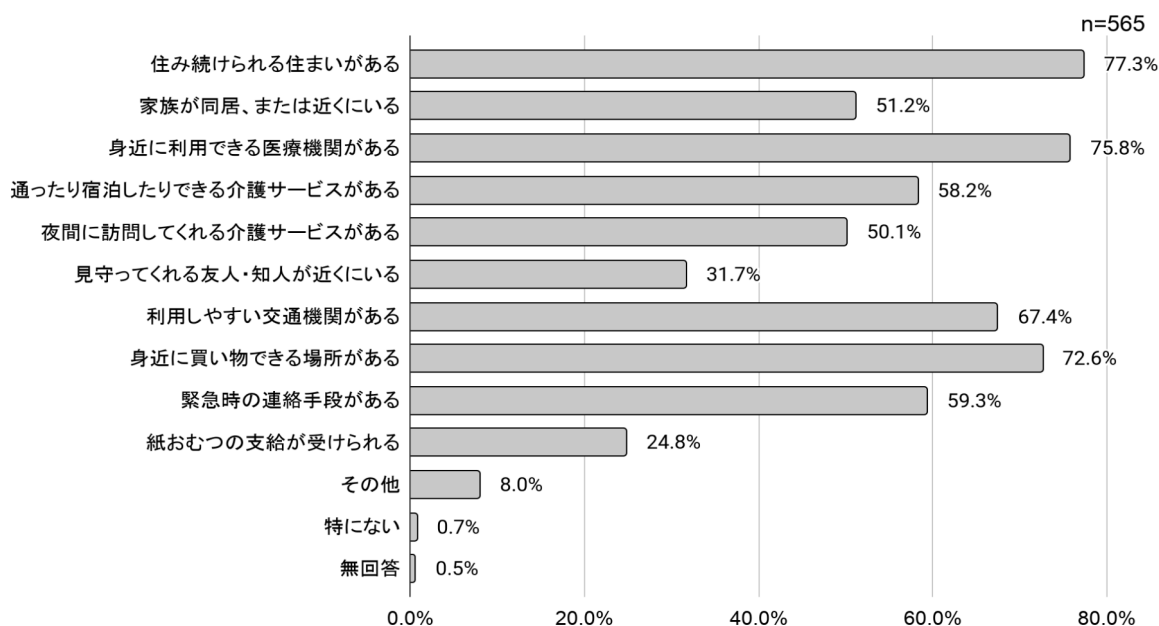


在宅生活に必要なこと（複数回答）

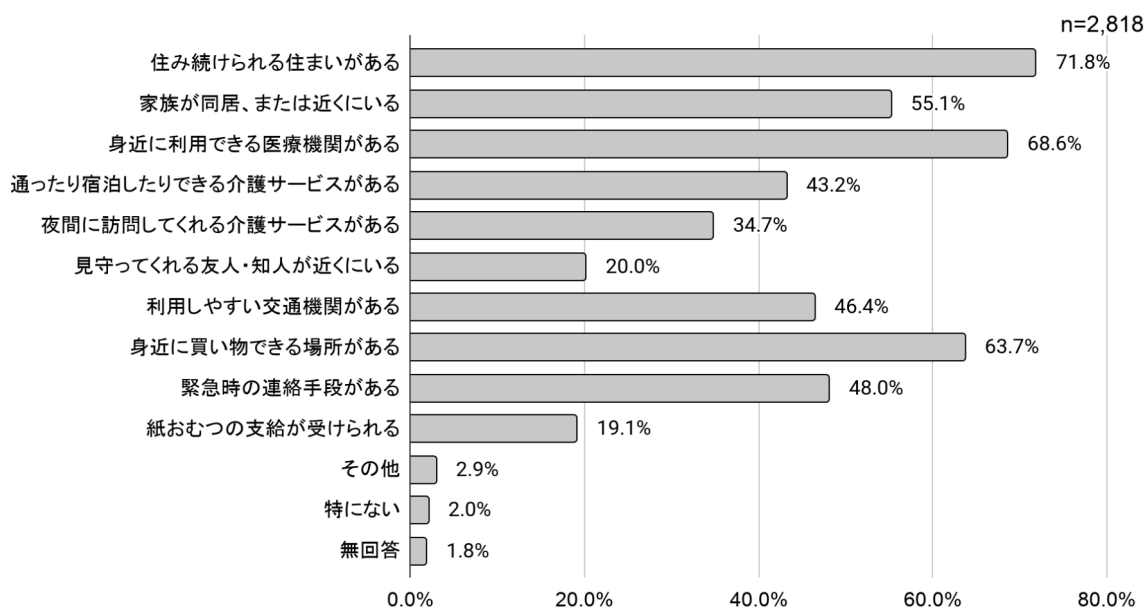
介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには何が必要かを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「住み続けられる住まいがある」が最も多く、64歳以下では77.3%、65歳以上は71.8%となっている。次いで、「身近に利用できる医療機関がある」が64歳以下で75.8%、65歳以上で68.6%、「身近に買い物できる場所がある」が64歳以下で72.6%、65歳以上で63.7%となっている。

在宅生活に必要なこと（複数回答）

40歳以上64歳以下



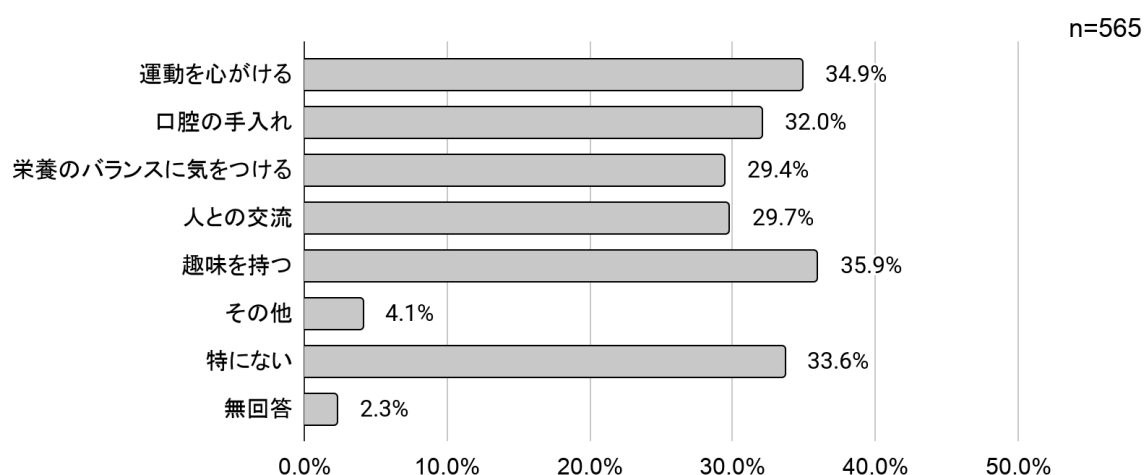
65歳以上



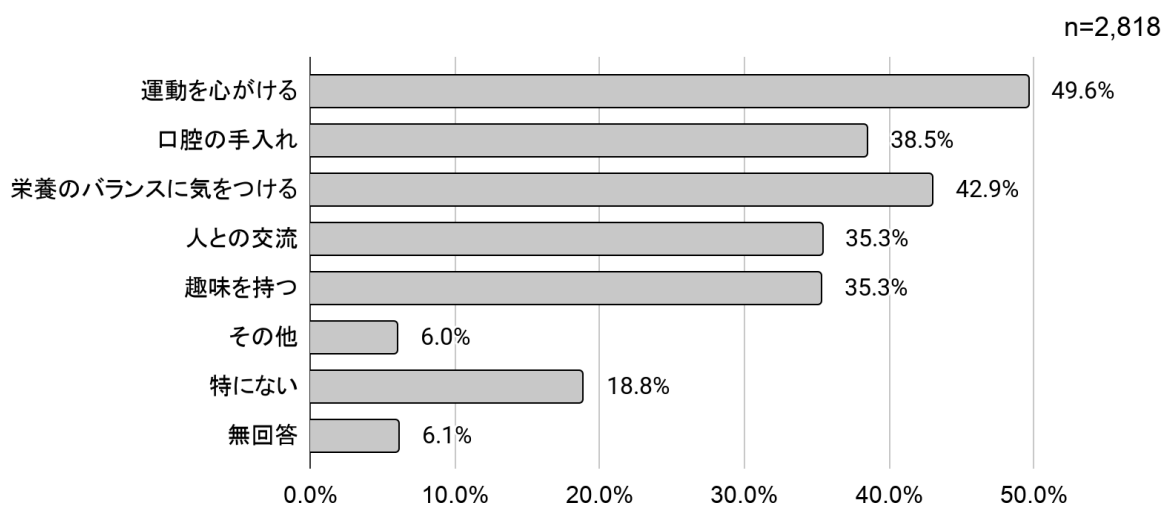
認知症予防の取組（複数回答）

認知症予防のために取り組んでいることについて尋ねたところ、64歳以下は「趣味を持つ」（35.9%）が最も多く、次いで、「運動を心がける」（34.9%）、「特にない」（33.6%）となっており、65歳以上では「運動を心がける」（49.6%）が最も多く、次いで「栄養のバランスに気をつける」（42.9%）、「口腔の手入れ」（38.5%）となっている。

認知症予防の取組（複数回答）
40歳以上64歳以下



65歳以上



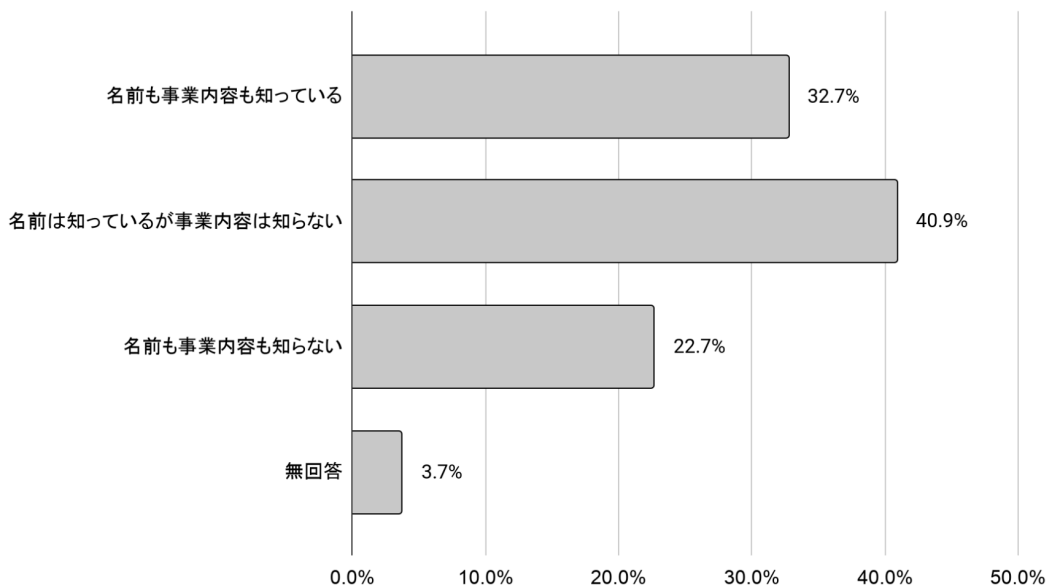
5 保健・福祉施策

地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センターの認知度について尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「名前は知っているが事業内容は知らない」の割合が最も多く、64歳以下で40.9%、65歳以上で40.0%となっている。次いで、「名前も事業内容も知っている」が64歳以下で32.7%、65歳以上で32.9%となっている。

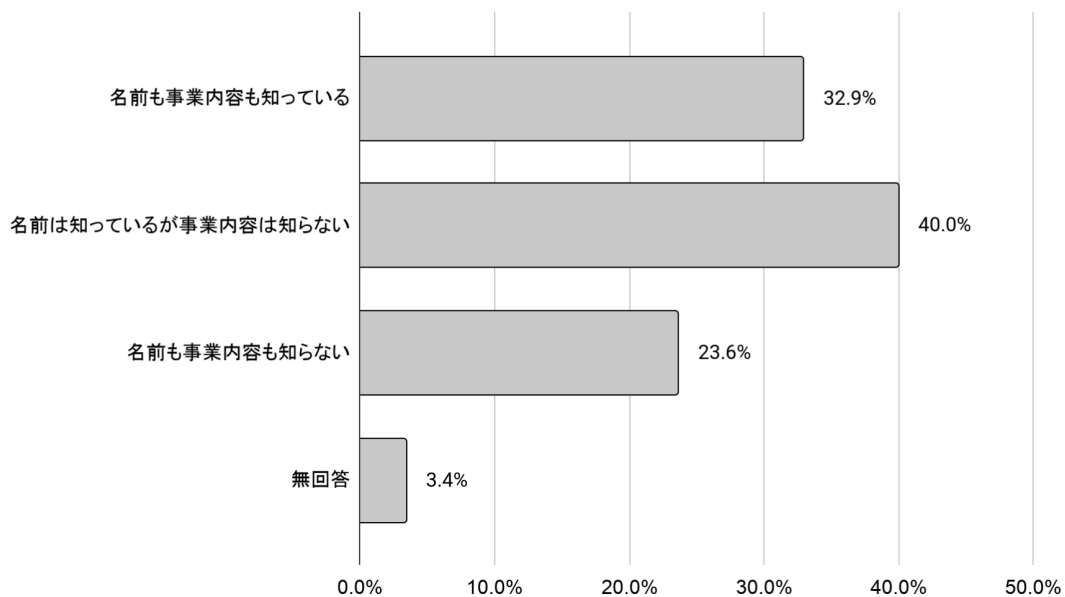
地域包括支援センターの認知度
40歳以上64歳以下

n=565



65歳以上

n=2,818



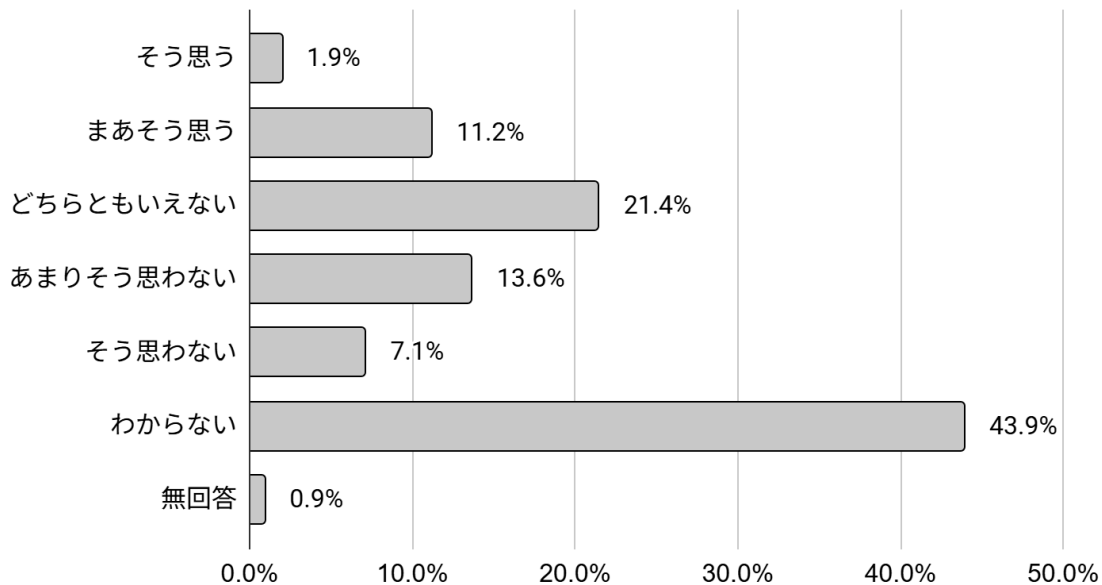
元気で暮らし続けるための取組

札幌市では、高齢者が介護を必要とせずに元気で健康に暮らし続けるための取組が十分になされていると思うか尋ねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は13.1%、65歳以上は21.3%となっている。

一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、64歳以下は20.7%、65歳以上は16.4%となっている。

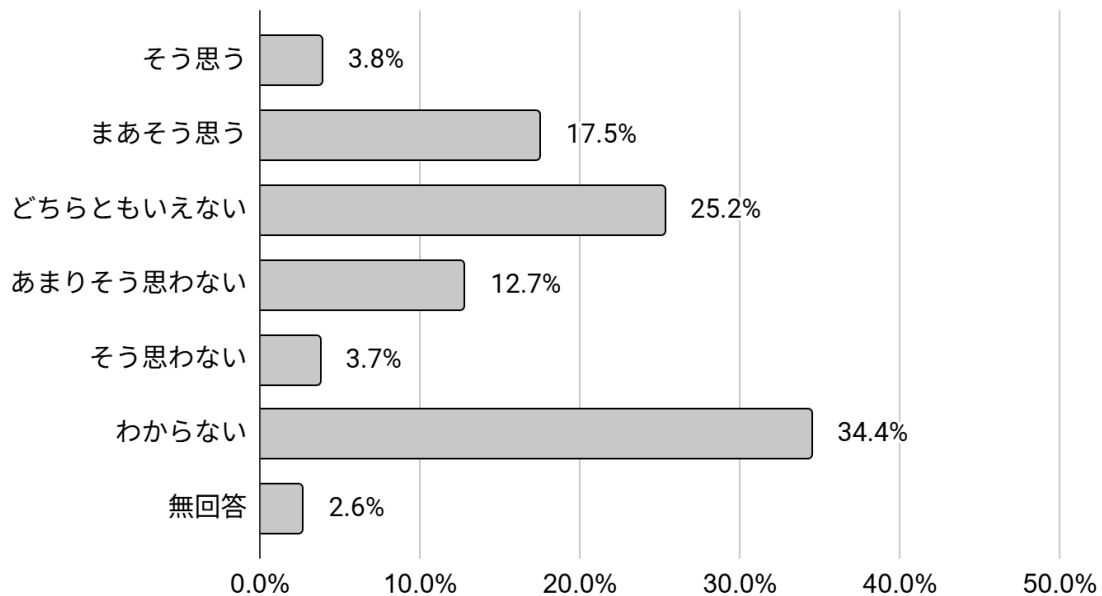
元気で暮らし続けるための取組 40歳以上64歳以下

n=565



65歳以上

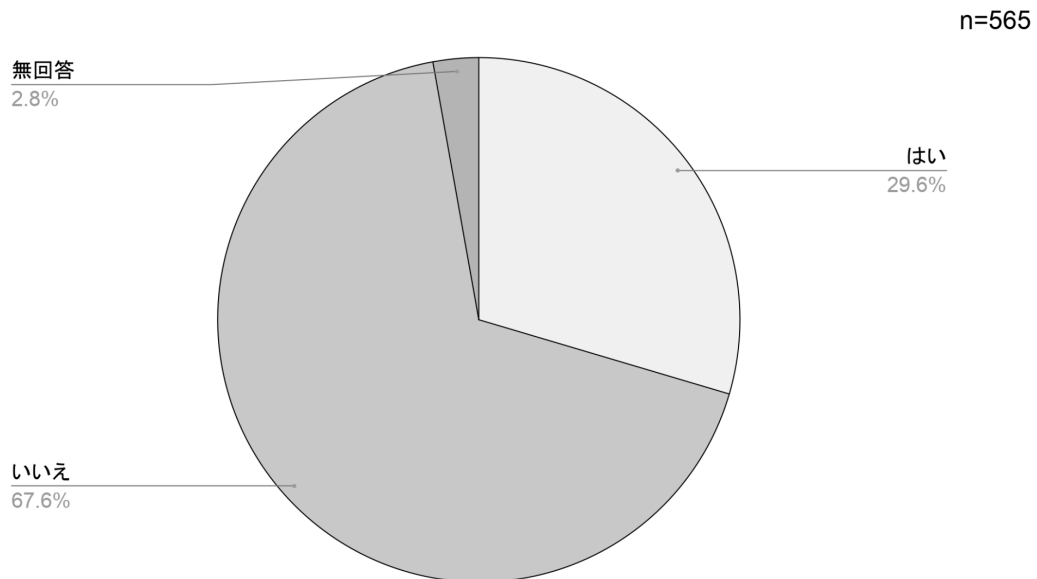
n=2,818



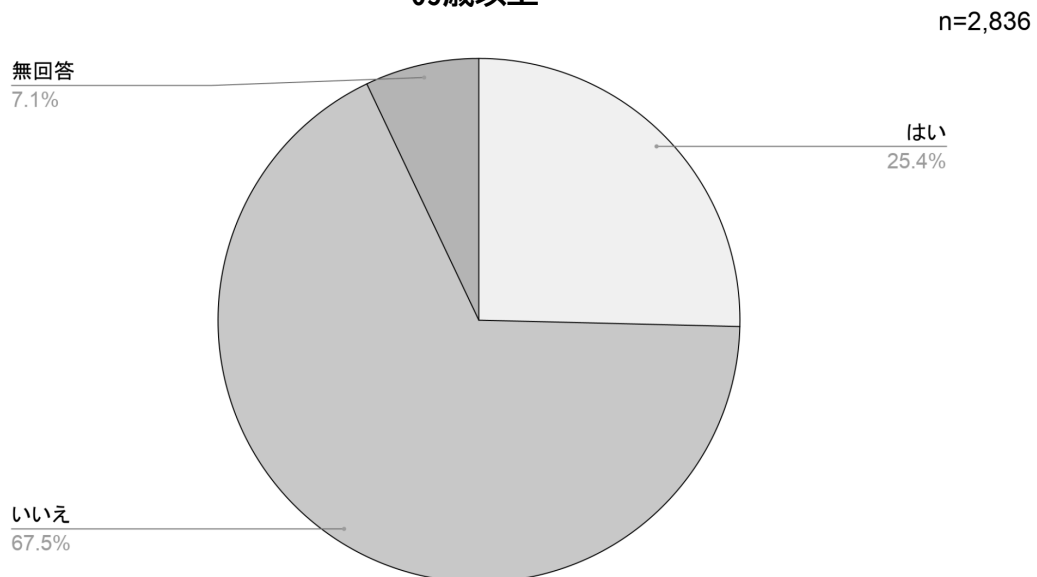
認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っているかを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「いいえ」が50.0%を超えており、64歳以下が67.6%、65歳以上が67.5%となっている。

認知症に関する相談窓口の認知度 40歳以上64歳以下



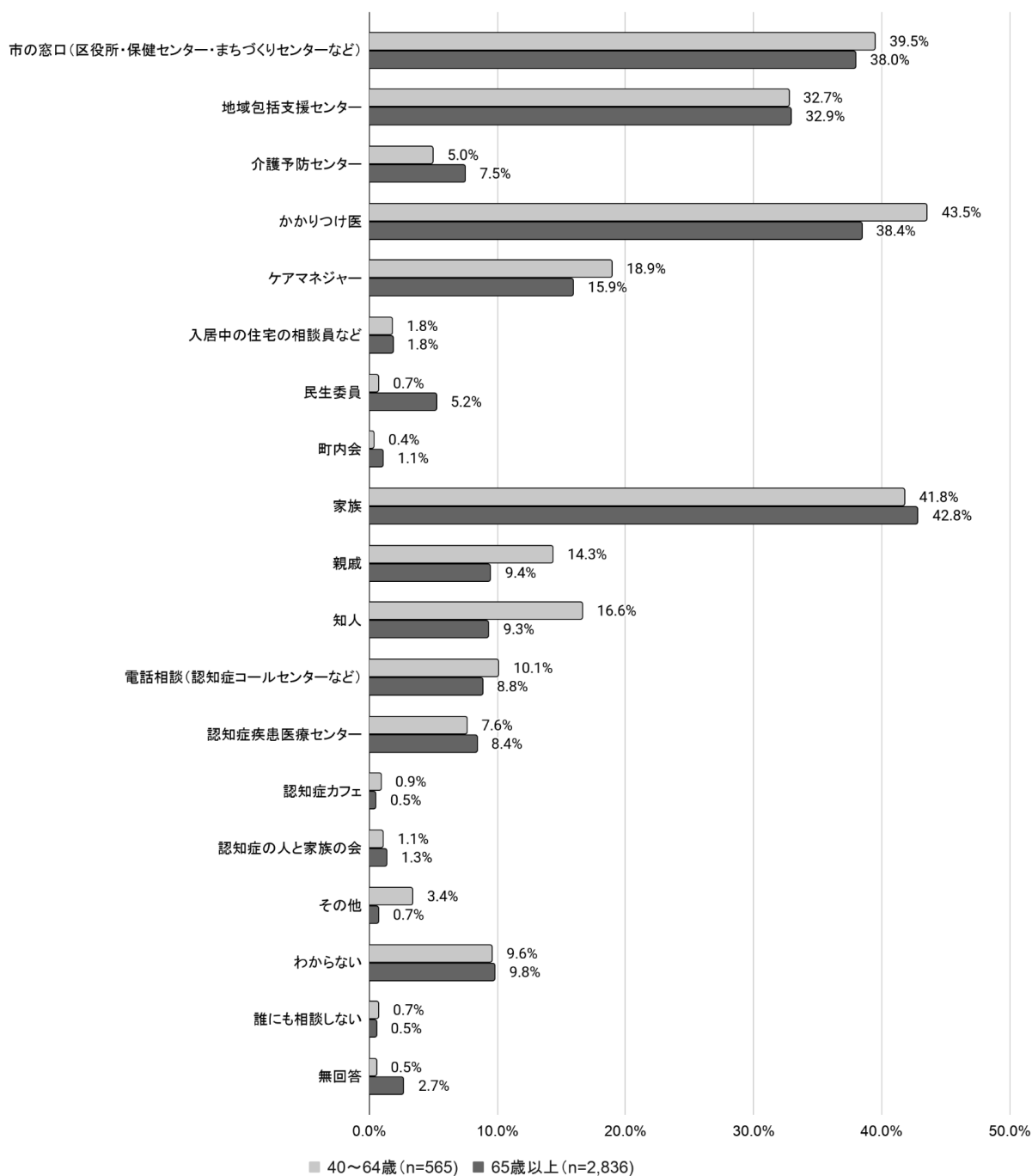
65歳以上



認知症の相談先（複数回答）

仮に自分自身やご家族の方に認知症の心配がある場合、どこに相談するかを尋ねたところ、64歳以下は「かかりつけ医」（43.5%）が最も多く、次いで「家族」（41.8%）、「市の窓口（区役所・保健センター・まちづくりセンターなど）」（39.5%）となっている。65歳以上では、「家族」（42.8%）が最も多く、次いで「かかりつけ医」（38.4%）、「市の窓口（区役所・保健センター・まちづくりセンターなど）」（38.0%）となっている。

認知症の相談先（複数回答）



サービス情報の入手先【65歳以上のみ】（複数回答）

高齢者の保健・福祉サービスに関する情報を主にどこから入手しているか尋ねたところ、「新聞・情報誌」、「市の広報（広報さっぽろなど）」（47.4%）が最も多く、次いで「テレビ」（47.2%）、「インターネット（ホームページなど）」（15.5%）となっている。

サービス情報の入手先【65歳以上】（複数回答）

